

訪問看護ステーションポプラ

寒澤 圭介 (職種 理学療法士 / 所属部署 訪問看護ステーションポプラ)

功 績 石狩市の有志団体「いしかり医療と福祉のまちづくりひろば(通称:いしまち)」にて、石狩の医療介護福祉法人等の垣根を超えた人間関係作りを目的とし、「ケアカフェ&学習会」の班長として勉強会・名刺交換会・情報交換会の企画立案・運営の中心的役割を担い、地域を繋ぐことに尽力した。

推 薦 者 阿部 沙智 (職種 看護師 / 所属部署 訪問看護ステーションポプラ / 所長)

推 薦 理 由 彼と共にポプラで働いて11年となるが、入職した当初より花川地区のパーキンソン患者家族会や町内会館での体操教室の開催支援に自主的に携わっていたのを近くで見してきた。

小さな会から始まった地域貢献が、今回のような大きな交流会となり「石狩の医療・介護・福祉が一つのチームになれる」そんな期待を持たため、彼の活動を後押しすることも含め、理事長賞へ推薦致します。

内 容

寒沢は昨年度より「いしまち」の班長として活動の先頭に立ち、7月に石狩市職員、江別保健所、包括支援センター、石狩市内及び札幌市内の医療機関、介護・福祉施設の保健師、看護師、介護士、相談員、介護支援専門員、セラピスト、福祉用具業者等、計60名が参加する交流会を企画し開催した。事前の広報活動を頑張ったこともあったが、コロナ禍明けで新しく石狩地域に勤務している医療・介護従事者も多く、なかなか交流の場が作れなかったこともあり、初参加が半数を占めており、すでに構築された繋がりだけでなく新たな繋がりを作り出すきっかけも作ることが出来ていた。

交流会では、花川病院・オアシス21を始め、市内の医療機関の紹介を互いに行い、医療資源や病院・施設の現状を一度にアップデートする事ができたと同時に、浮き彫りとなった地域課題についても話し合う事ができた。複数上げられた課題の中でも特に、各訪問系または送迎を有する事業所がこれまで課題としてきた冬期間の駐車問題について共有する事ができ、交流会をきっかけにこの課題を地域全体で解決するべく活動が新たに始動されることになった。すぐに石狩市へ課題を提議したが、市として駐車許可する事は困難との回答であったため、石狩市の商工会議所にアプローチし、現在前向きに検討してくれている状況である。このような大きな取り組みがポプラの一職員によって生み出されたことを誇りに思う。

石狩市は隣接する札幌市に比べ小さな街であるが、そのことをネガティブに捉えるのではなく、互いに集まり手を繋げば大きな力を発揮できる事を我々が自覚し、また札幌市内の医療機関や介護施設・事業所等と共に歩いていくためにも交流会は続けて欲しいと願う。この活動を継続し、石狩市の地域医療・介護・福祉がさらにレベルアップしていくことに微力を尽くしたい。